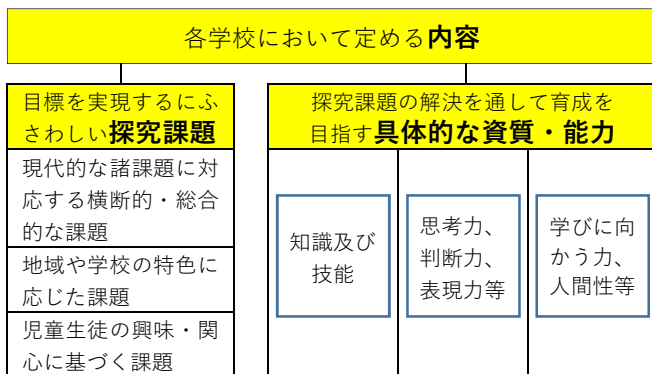


総合的な学習の時間

総合的な学習の時間においては、児童や学校、地域の実態等に応じて、児童が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした活動の充実を図ることが大切です。

◆ 「内容のまとめり」の考え方

総合的な学習の時間における「内容のまとめり」とは、各学校が全体計画に示した「目標を実現するにふさわしい探究課題」のうち、一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力と考えることができます。



◆ 内容のまとめりごとの評価規準の作成

①各学校において定めた目標と「評価の観点及びその趣旨」を確認します。

※「評価の観点及びその趣旨」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」（別紙4 30ページ）を参照してください。

②各学校において定めた内容の記述（「内容のまとめり」として探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認します。

③【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

- 「知識・技能」のポイント
 - ・内容のまとめりの「知識及び技能」において、記載事項の文末を、例えば「理解する」から「理解している」などとする。
- 「思考・判断・表現」のポイント
 - ・内容のまとめりの「思考力、判断力、表現力等」において、記載事項の文末を、例えば「できる」から「している」などとする。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
 - ・内容のまとめりの「学びに向かう力、人間性等」において、記載事項の文末を、例えば「しようとする」から「しようとしている」などとする。

◆ 単元の目標及び評価規準の作成

①「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成します。

②「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童の姿を想定し、単元の評価規準を作成します。

（例）第4学年 環境に関する「内容のまとめり」をもとに作成した例

探究課題	内容のまとめりごとの評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解している。 ・調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 ・環境と生物とが共生していることの理解は、自然環境とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ・課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ・相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ・自分と違う意見を生かしながら協働して学び合おうとしている。 ・地域との関わりの中で自分ができることを見付けようとしている。

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
川の美しさを取り戻そう	<ul style="list-style-type: none"> ①住吉川の環境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動を続けている人や組織の存在、思いに気付いている。 ②住吉川に住む生物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。 ③住吉川の環境と自分たちの生活には関連があることの理解は、川とそこに生息する生き物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①住吉川の上流と中・下流の様子の比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。 ②住吉川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。 ③住吉川の環境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。 ④川の水質保全に向けた自分の考えや、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①住吉川とそこに住む生物の関係を明らかにするという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。 ②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③自分と川や地域の人々等とのつながりに気付き、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。

◆ 学習評価に関する事例

1 単元名

川の美しさを取り戻そう（第4学年）

2 内容のまとまり

環境（全70時間）

3 単元の目標

ア 住吉川の環境について調べたり、その保全に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して、イ 環境保全に関する具体的な取組について考え、ウ 環境を守る活動を続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、エ 住吉川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

【POINT】

「内容のまとまり」を基に単元全体を見通して、4つの要素を構造的に配列し、単元の目標を作成しています。
ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動
イ 単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
ウ 単元において重視する「知識及び技能」
エ 単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」
※ イ～エは、アとの関わりにおいて作成しています。

4 単元の評価規準

※前ページ【「川の美しさを取り戻そう」の単元の評価規準（例）】を参照

5 指導と評価の計画（70時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 住吉川の様子をさぐる。（15）	・川の中流、下流、上流のそれぞれを探検し、それぞれの特徴をまとめる。 ・ホタルがいる上流の様子と、油や泡、ゴミなどがある中・下流の様子を比較する。			①	・行動観察 ・記録シート
	・比較から生じたギャップから問題状況を捉え、「川の美しさを取り戻そう」という単元を通じた課題を設定する。		①		・発言内容 ・課題カード
2 住吉川の美しさを取り戻すための活動を考えて実行しよう。（35）	・川の美しさを取り戻すための活動を進めるために、川の調査や周辺住民へのインタビューから必要な情報を集める。	②	②		・行動観察 ・調査シート
	・川の環境を守る取組を進めている「ホタルを増やす会」の人の話を聞く。				・発言内容 ・表現物
	・調査したことや聞いたこと等を整理して、川の美しさを取り戻すための具体的な活動を考える。		③		・発言内容 ・表現物
3 地域とともに活動を行い、これからの自分たちの行動について考えよう。（20）	・川 の美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。			②	・行動観察 ・取組カード
	・様々な人や組織が住吉川の環境保全に関わっていることを振り返る。	①			・発言内容 ・振り返りカード
	・地域の人に川への関心を高めてもらうための活動を企画する。			③	・発言内容 ・ワークシート
	・家庭 でできる川を汚さない方法を伝える、川掃除会を開催する、「ホタルを増やす会」の活動に参加するなど、実行に向けた準備を進める。			④	・発言内容 ・ワークシート
	・今後の自分たちと地域との関わりや環境との関わりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。	③			・発言内容 ・作文カード

【POINT】

「単元の評価規準」を作成するに当たっては、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を発揮する児童の姿を想定することが大切です。
その際、実際に行う学習活動や扱う学習対象と、発揮される資質・能力を具体的に描くことが重要です。

【POINT】

単元の評価規準の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、児童の姿となって表れやすい場面、全ての児童を見取りやすい場面を選定することが重要です。

【POINT】

観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。

※ で示した学習活動に係る観点別学習状況の評価の具体的な進め方については、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」小学校総合的な学習の時間（65～71ページ）を参照してください。